

## 第3回印西市部活動地域移行推進協議会 議事録

日時：令和8年1月22日（木）

13：30～15：11

場所：市役所41会議室

### 《出席委員》 敬称略

青木 和浩 磯 昌稔 荻原 健一 渡辺 敏雄  
高平 光重 川嶋 将行 伊藤 章 中嶋 広

### 《出席事務局職員》

印西市教育委員会指導課 課 長 岡田 光靖  
印西市教育委員会指導課 指導主事 山崎 智貴  
印西市教育委員会指導課 指導主事 中島 友弘

### 《傍聴者》

なし

### 《次第》

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 報告事項
  - (1) 千葉県教育委員会より
  - (2) 文部科学省（スポーツ庁・文化庁）より
  - (3) 各中学校の新生保護者説明会の地域移行[展開]説明
- 4 協議事項
  - (1) 実態調査アンケートの結果について
  - (2) 印西市部活動地域移行[展開]推進計画について
- 5 その他
  - (1) 印西市部活動地域移行推進協議会設置要綱の改訂について
- 6 閉会

## 【議事要旨】

### 1 開会

(司会)

ただいまより令和7年度第3回印西市部活動地域移行推進協議会を開会いたします。

議事に入る前に申し上げます。当協議会は、印西市市民参加条例第11条4項の規定に基づき、会議公開に伴う傍聴席の開設と、会議録作成のため録音機材を設置して録音させていただきます。現在、傍聴人はおりません。

### 2 会長挨拶

(司会)

次第2、会長挨拶、会長お願いします。

(会長)

改めまして、本年もよろしく願いいたします。

さて、印西市の地域移行、地域展開については、総論的に良いのですが、いざ各論となった時には様々な問題が出てくると思っております。前もお話をしたと思いますが、世の中には良い事例しか出ていません。問題点、課題点を捉えておくことが、非常に重要なことだと思います。そういった蓄積が今後、この市の推進に役立つと思っております。本日も慎重審議のほど、よろしく願いいたします。

### 3 報告事項

(司会)

報告事項(1)千葉県教委より、(2)文科省(スポーツ庁・文化庁)より、(3)新入生保護者会の説明について、事務局から一括で説明いたします。

(事務局)

1頁をご覧ください。11月実施の県の担当者会議での県からの説明を共有いたします。

まず、地域展開の推進については、令和8年度に入ると77%の自治体で地域展開の取組が見られるようになります。この協議会が発足した3年前は、先進事例として一つの市の事例しかありませんでしたが、千葉県内、特に印旛を含む北西部で地域展開が進んでいます。先行の市は全部活動の地域展開が完了しておりますが、それに次いで近隣市が今年の11月頃に地域展開を完了しました。次年度は印西市を含む複数の自治体で地域展開完了を予定しております。

2～3頁をご覧ください。

昨年12月に部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドラインが改訂されました。QRコードよりガイドラインの全文と概要が表示できるようにしております。また、概要についてはこの資料にも掲載しました。

大きいトピックとして、令和8年度～令和13年度までを改革実行期間として設定され、部活動の意義を継承発展させつつ、地域全体で新たな価値を創出するよう理念が掲げられています。さらに、地域クラブ活動の認定制度が設定されます。小中学校体育連盟の担当者の話では、この認定制度をクリアすればそもそも競技細則は適用しないとの話もありました。

4～5頁をご覧ください。

今年度も各中学校で実施された新入生保護者説明会に参加させていただき、直接保護者に説明する時間をいただきました。10分程度なので詳細については説明できていませんが、リーフレットや広報だけではなく、保護者に直接説明する機会を設定しました。

以上、前回の協議会以降の地域移行関係の報告になります。

(司会)

報告事項について何かご質問やご意見があればお願いします。

(会長)

説明会では、どんな話をしたのでしょうか。

(事務局)

資料の4ページ、5ページにある資料を、各中学校の新入生保護者説明会資料に綴じていただいております。リーフレットで周知していても、なかなか伝わっていない部分もあるので、この地域移行に至っている経緯と、印西市の課題をお伝えした後で、今現在の地域展開に取り組んでいることを周知しました。

今年度については、野球と女子バレーボールのモデルが実施中なので、実際に取り組みはじめての良いところ、悪いところ、この地域展開だからこそ得られることを、モデル事業の実際にある例を示しました。例えば「野球部のない学校の生徒が野球クラブに属して野球に取り組むことができるようになったこと」や、「平日はサッカー一部に所属しながらバレークラブに登録して2つの種目に取り組むことができるようになったこと」などです。「学校部活動でうまくいかなくなってしまい、やりたいことができなくなってしまった子たちが、またスポーツに取り組めるようになった」という好事例もお伝えしました。

もちろん、受益者負担や送迎などの課題は、保護者の中であるとは思いますが、まずはこの地域クラブの取り組みがどういうものなのかということを中心に、説明しております。

(会長)

令和8年度の活動について、生徒にはどのように周知するか教えてほしいです。

(事務局)

その詳しい情報については、全体説明会を予定し、一斉に伝える予定でいます。

(委員)

アンケートの中にも、やはり保護者の方から生徒に直接説明をしていただきたいというご意見も入っていたように思います。その辺、何か対応は考えられているのでしょうか。

金額の設定についても教えてほしいです。

(事務局)

受益者負担の年会費5000円と月会費3000円については、生徒向け、保護者向けというわけではないですが、2年前からリーフレットの方で、金額の方向性の周知はしています。昨年の全体説明会でも、事業者から、この活動費、この額より上振れはないと説明しています。

(委員)

保護者の皆様に説明する機会を10分程度説明会の中で設けているということだったので、生徒の方には直接何かこの地域移行に対する説明はありますか。

(事務局)

生徒に関しては、教育委員会から直接の説明という機会は設けていません。ただ、この保護者説明会と同時期に、学校には新入生説明会等で部活動担当や生徒指導の担当から、地域展開について、同じ資料に基づいて生徒たちに説明するよう依頼しております。

(委員)

5ページ下に、某中学校「以外」と書いてありますが、その中学校はやらないのでしょうか。

(事務局)

2年連続で「来なくて大丈夫です。自校で説明します。」との回答でした。

(会長)

印西市はこの説明会を受けて、「学区が違うがここに行きたい」とかそういうことはないのでしょうか。このクラブに行きたいとか。例えば、都内のある自治体だと、この説明会の時にその拠点クラブが示されています。

(事務局)

現在は指定学区の学校に部活動設置がない場合、部活動を理由に学区外就学が認められていません。

(会長)

自分の学校にもある種目でも、土日には、違うところを選べるということですね。

(事務局)

はい。種目によって移動が可能な種目もあります。

(会長)

同時並行で、「こういう枠組みで土日は行くよ」という発信をした方がいいと思います。そうすればネクサスでのイメージがもっとついてくると思います。

(事務局)

まだ、次年度のクラブの設置は決定できないでいます。ちょうどこれから、小中体連の次年度の方針を受け、細かくクラブ設置を決めていく形になります。

(会長)

参加している保護者からすれば、「うちの中学校のうちの子のクラブはどうなの。」というのは、説明会に行った時に1番の関心事だと思います。いつぐらいにわかるのかなど、スケジュール感がわかれば出してあげるのもいいと思います。

(事務局)

はい、わかりました。

(委員)

5 ページのところ、平日は部活動に所属しないで休日だけ地域クラブに所属した場合というのは、年会費5000円に月会費3000円が発生するのでしょうか。逆に、平日の部活動はやっているが休日の地域クラブに所属しない場合は、活動費の負担はないのでしょうか。

(事務局)

ご質問にあったように、この年会費の5000円と月会費の3000円は、この休日の地域クラブにかかる費用になりますので、例えば、平日部活動はやっていないけれども、休日この地域クラブに属すと、この年会費と月会費は発生します。逆に、地域クラブに属さないで、平日5日間だけ部活動に取り組んでいる場合、学校の部活動になりますので、活動費の負担はかかりません。

(委員)

その場合、前回の会議の時に、「部活動費が保護者会費などから出ている」という話があったのですが、その保護者会費を変えずに、活動費だけ出るのはおかしいのではないかという問題が出ると思うのですが、もしそれが減額等された場合に、その平日の部活動に関しては費用負担がないというような状況になるのでしょうか。

(事務局)

少し先の話だとは思いますが、当然、今より活動が減る、今までより遠征・試合がなくなる、大会参加費がなくなる等のことを考えると、今現在の部活動の活動費、部費は下がっていくことは想定されます。ただ、まだ次年度8月までは休日の部活動が残るので、そこまで、学校に周知するというところまでは完了していません。

(委員)

吹奏楽の活動費がものすごくかかるので、土日の演奏会は地域でやるとなると、今学校が全部負担している費用が、どちらがどう使っていくのか問題になってきます。楽器は何万円、場合に

よっては何十万円なので、もう学校でお金は集めませんとなると、だれが負担するのか、近い将来、問題になります。

#### 4 協議事項

(司会者)

続きまして、次、協議事項に入らせていただきますが、当協議会設置要項第7条の1項の規定により、議長は会長が務めることになっております。

ここからの進行は会長にお願いします。よろしくお願いします。

(会長)

はい、ありがとうございます。それでは、私の方で議事を進行してまいります。

初めに、本日の議事録署名人になります。こちらから指名させていただきます。

2名の委員にお願いします。

協議事項(1) 実態調査アンケート結果・考察について、事務局お願いします。

(事務局)

前回、アンケートについて委員から「仮説を立てて練り直した方がよい」とご意見いただき、再度仮説を立て、内容を精査してアンケートを実施いたしました。12月中にアンケートを実施し、1月になってから結果を取りまとめております。細かく分析し、改善点を示すところまでは至っておりませんが、結果を共有させていただきます。

なかなか手厳しい意見もありました。それを踏まえ、9月からの本格実施までに修正しながらモデルを継続していこうと考えています。前回の協議会で提示したとおり、“学校の教員向け”と“印西ネクサスの登録者向け”との、二系統で分け、学校向けについては教育委員会からアンケートを実施しました。印西ネクサスの登録者向けには、運営事業者からアンケートを投げかけるような形となっています。

まず、教育委員会側で取りまとめた、管理職向け、休日を過ごせるようになった顧問の先生向け、そして次年度の兼職兼業の指導者の意向調査(小学校の先生、中学校の先生で土日に指導したいという方の意向調査)アンケートの結果から共有させていただきます。

別添資料(1)「実態アンケートの結果について」が、教育委員会で行ったアンケート結果になります。まず、この1ページ目にあるのが、管理職の16人からご回答いただいた内容になります。管理職の先生方には、基本的に自由記述、文章回答アンケートを実施いたしました。

続きまして、5ページが、この9月から野球と女子バレーボールでモデル実施をしたことで、土日の指導をせず、お休みが取れている先生方向けへのアンケートになります。12人の先生方から回答を得ております。

7ページは、全小学校、全中学校の先生方に、次年度の兼職兼業の希望を取った調査結果にな

ります。中学校に関しては、令和4年に取ったアンケートと同様、この印西ネクサスの指導を希望している方、検討したりしている方で、3割程度ということになります。小学校の先生では10パーセント未満になっています。やはり、人材確保は難しいと思いながらアンケート結果をまとめていました。

8ページになりますが、ここに管理職向け、休日を過ごすことができるようになった職員顧問向け、教職員の兼業意向調査アンケートの課題と考察について載せさせていただきました。

まず、管理職向けアンケートについてです。部活動地域移行は生徒に新たな交流の機会を提供し、教育の質向上につながる可能性はあるが、地域クラブ設立については施設利用の調整やルール設定が必要だという内容です。また、指導者の確保と質の担保も重要な課題であり、指導者の配置については慎重に対応する必要があるとしています。受益者負担については、経済的に負担を強いられる家庭への配慮が求められます。学校現場の意見として、学校部活動から切り離れた形の地域クラブとして活動できるような制度設計が望まれています。教職員の負担軽減にもつながり、より良い教育環境を形成するためのきっかけとなるという意見が多くあります。

休日を過ごすことができるようになった顧問向けのアンケートでは、プライベートの時間を確保することができ、教員自身の私生活の充実感が向上し、笑顔で教壇に立てることは教育において重要な要素になること、同時に部活動指導が減ったことによる精神的負担の減少を強く感じている意見が多く見られました。一方、小中学校体育連盟との連携において、大会における外部指導者の登録に関する課題や、審判としての教職員派遣がなくなるなど、大会運営が教員の負担となり続けている現状が指摘されています。行政の立場だけではなく、大会主催者側の意向も考慮して対応していく必要があると言えます。大会主催者に改善を行政として求めていく必要もあるということでもまとめさせていただきました。

教職員の兼職兼業移行調査のアンケートは、小学校と中学校で、今までの関わり方の違いもあり、希望者に偏りがあります。ただどちらにも共通して、家庭と仕事の両立、今までの仕組みではないものなので手続きへの不安、この地域移行が将来的に本当に続くのかという不明瞭さ、不明確さへの不安等を指摘する回答が、多かったと感じております。本来であればこの解決策を示したいところですが、現段階は結果を取りまとめたところなので、今日この場で委員の皆様にもいろいろご指摘をいただきながら、半年後の本格実施に向けていろいろ修正をしていきたいと思っております。教育委員会側のアンケート結果報告は以上になります。

(会長)

管理職向けのアンケート結果について何かご質問、ご意見等ございますか。

(委員)

外活動のトイレが心配です。陸上やサッカーが始まると校舎内に入れなければいけないような状況が出てくるかもしれない。吹奏楽、卓球だけかなと思ったら、それ以外にも出てくるかもし

れない。そういうことも整理していく必要がある。学校側が「もう地域移行にしました。もう私たちやりません。」という形になったところでどうするかとなります。

(事務局)

指導者に体育館の鍵を貸し出し、体育館のトイレとAEDはもう借用することを基本として考えています。外の活動であっても体育館の鍵を持って体育館のトイレを使うという準備をしております。

(会長)

委員のご意見は、すごく大切なところですよ。おそらく学校の先生は「もうお任せするよ」となった時に、学校の中のルールの問題もあると思います。例えば、駐車場で一方通行で車を入れるとか、ここから入るとか、その学校独自のルールがあると思います。他校の生徒は知らないし、保護者も知らない。そういう学校独自は、学校ごとの暗黙の了解で存在していると思います。そういうことの引き継ぎって言うようなところをやっておかないと、「月曜日に行ったらなんか全然違う」と学校職員が感じ、問題になってしまいます。管理職としては、「何が起きたんだろう」となります。今の世の中、結構別の人が入ってきて物を盗んだりすることもあり、安全性のこともあります。単にクラブ活動の運営だけではなく、その学校管理という面も形にしていく必要が委託された側にはあると思います。

(事務局)

ありがとうございます。

(委員)

アンケートについて、資料として今日は結果が来ていますが、どういう聞き方をされたかが見えません。この会議でお示しいただきましたでしょうか。

(事務局)

前回の会議で、事務局のアンケート方針は示しました。

(委員)

今後、アンケートを実施する際は、どういう意図をもってその質問をし、その結果をどのように活かしていくのかを明確にすることが大切だと思います。

(事務局)

わかりました。はい、ありがとうございます。

(委員)

4ページについて、質問です。回答が全部③独立の地域クラブになっています。先ほどの委員の話と重なります、どういう聞き方をしているのか、気になります。

(事務局)

このアンケートの質問内容は「地域クラブの活動形式について問います」という内容です。こ

のアンケートの活動形式は、①に「部活動置き換え型」と書いてあります。これは今、他市のケースで、「平日の学校の部活動のまま大会に出し、土日の指導者だけ派遣する」という形を示しております。②に「拠点部活動」と書いています。今年モデルである野球のやり方で、大会は部活動の名前が出るが、実態は地域クラブというものです。ただし、顧問は教員でなければならないので、兼職兼業の顧問ありきでチームを合体して大会出場するものです。③に示したものが今年度のモデルのバレーボール型で、教員でなくても指導者が自立して取り組めるケースです。この三つを提示して、どれが地域移行にふさわしいかと問いました。管理職の先生方は、「学校活動と地域クラブは別物だ」と考えている方が多いので、回答の全部が、3番の「この学校から独立した形での地域クラブの運営が地域移行には望ましい」という回答になっています。

(委員)

小中学校体育連盟との連携についての記載もありますが、将来的に地域移行した場合、そのものの存在意義や大会参加について、小中学校体育連盟の考えに左右されるとなると、そもそもそこに従う必要性に疑問があります。

(事務局)

指導主事の学習会があり、このテーマで勉強会をしました。地域移行の本来の意義は、大会への参加ではなく、スポーツに触れたり、自分のやりたいことに取り組むことができたりするところに、本来の意図はあります。ただ、この事業を担当していて、保護者や子どもたちが、今まで部活動で行ってきたことができなくなってしまうのは困るという意見がすごく強く、どちらかに踏み切ってやることはすごく難しいと感じています。例えば、「もう地域クラブで受け入れてくれる大会だけ出ますよ、体育連盟の大会はやめます、一切お手伝いしませんよ」とは言い難い感覚があります。この小中学校体育連盟主催の大会に出るか出ないかっていうところで、ブレーキがかかったり、条件がついたりしてしまうところが、この地域移行がうまく進まない1つの要因になっていると感じています。

(委員)

おそらくこれをやっていくには、地域移行のデザインや、市教委と学校と保護者の三角形のバランスが大事です。学校は「もう切り離そう」という考えが強いです。だから、市内校長会では、来年からもう4時半下校にしようとして検討しています。4時半だと、帰りの会が4時で、その後10分から15分程度しか部活動に取り組みなくなります。将来的には部活動をしないで良いという考えかもしれません。学校の部活動がだんだんフェードアウトに向かっていきます。学校としてはもう「もう地域展開だからいいでしょ」という感覚です。そうすると、さっき言ったように、部費などもなくなり、物が買えなくなってくることになる。保護者としては「今まで教育の一環として手厚かったものがなくなるの？」となります。考え方を変えて進めるということが、なかなか納得できなくて崩れていってしまうことにもなります。

やはり三角形のバランスをもっとうまく機能させないとダメなのかなと思います。例えば、「表彰はなしね」となれば、その不満は出て、行き場がなくなってしまいます。そんなとき、うまく三角形で補い合って、「これはお願いします」「こちらはやります」という連携を機能させていく必要があります。

(委員)

市では、学校開放事業で、学校教育施設、体育館、校庭、中学校の場合は柔剣道場なども、市のスポーツ団体の方々、市民の方々に、学校の使用がないときにお貸ししています。管理職向けのアンケート2段目で施設利用の調整やルール設定が必要と書いてあります。今までは学校教育の中に支障をあたえない大前提がありました。今度、部活動という形ではなく、学校のことでないものの活動を、学校施設とどう関係づけていくか、教育委員会と一緒に考えていかなければならないところだと考えています。学校開放事業をどういう形で進めていけばいいのか、部活動の地域展開事業を進めていく上で考えていかなければいけないところかなというのが1つです。

また、市内にいくつかスポーツ施設がありまして、例えば大きいものと言いますと松山下公園体育館もありますが、そういうところを地域クラブが利用するとなると、実は既に今の稼働率が高く、予約が取れません。市民の要望も多い中で、どのようにお互いに活動展開できるのかという課題が出てくると思います。

(委員)

先日、中学校の新人駅伝大会を松山下公園でやりました。学校から離していくことや、小中体連との兼ね合いなど、どんどん大会等から離れていく方向性に心配があります。大会等がなくなって、生徒はいったいどうするのだろうと。現状を調整して大会を維持してくれないと、非常に子どもたちは困ると思います。昔から、幼小の時代から、うさを抜くのに、祭りでわいわいやったりしてきたわけじゃないですか。中学生なんかは、うさははらさないとよくありませんからね。そういう中で、縮小していくと、行き場をなくした子どもたちが完全に狂っちゃうのではないかと思います。ですから、この地域展開で様々な組織で調和を取れるようにどうかしてほしいなと思います。

(委員)

駅伝がそうなのですが、平日に大会が開催され、県大会に行くと土日開催です。そうすると、学校部活動なのか地域クラブなのかも課題になってくると思います。平日開催で、その時に教えてチームを編成するのは顧問の先生だと思いますが、県の方に行った時に指導者が変わると混乱します。来年はそういうところをどうしたらいいか懸案事項として残ります。

実は陸上だけじゃなくて、吹奏楽も同じような課題があります。平日にコンクールがあるパターンもあれば、休日にコンクール、もうそれは他の競技と違って、平日とか休日っていうのは固

定されてないと聞いています。やはり平日に休日のクラブの指導者が稼働するのか、平日の顧問が休日に出るのかというところ、すごく難しい問題です。

(事務局)

ここでは解決策は出ないと思いますが、そのために平日の部活動の顧問と休日の地域クラブの指導者が連絡が取れるアプリケーションで繋がっていて、今も「生徒がこういう状況です」「土日でも注視してほしい」とか、「地域クラブで賞状が来ているので学校の部室等に飾ってください」とか、そういうような連携する機能を準備しています。その駅伝やコンクールがうまくいくのかどうかというところは、やってみないとわからないところもあります。先ほど委員からもありましたが、学校と保護者と運業者、市教委のトライアングルがもう少しというご指摘について、担当者としては、このスポーツや文化芸術活動を、「もう土日の部活動はなくなってしまうから、なんとかやれる機会を作ってあげたい」という思いで取り組んできました。それを「地域移行だから学校は縮小させよう」と学校が判断してしまうと、子どもたちのためにはならないように思います。働き方改革のためということはわかりますが、地域移行だから学校は離れようという考え方ですと、そこには子どもたち抜きの理論が発生していると個人的には思います。やはりそこは保護者も学校も市教委、運業者も、子どもたちに活動させる機会をどう作っていくのかという視点を持って、今後協議したり準備したりする必要があると再確認しました。「地域移行するから平日の部活動はもうやめよう」と進まれてしまいますと、事業としては平日の種目と休日の種目でマルチスポーツにも取り組むことができること、休日は勉強したいけど平日は部活に取り組むという市の方針とずれてしまいます。「地域移行が始まったら学校の部活動がちっともやらなくなってしまったじゃないか」となると、そもそもの方針から崩れた形になってしまいます。先ほども言ったように、トライアングルがうまく連携しながら子どもたちの機会を作れるようにすることは大事なことだと思います。

(会長)

次に、事業者からお願いします。

(事業者)

では、印西ネクサスに所属している生徒、保護者、指導者向けアンケートの回答を説明させていただきます。こちらの資料、大きく分けて3部構成にしております。すいません、表紙が資料2となっておりますが、こちら、アンケート結果の数値面を書いたものを資料1としております。めくっていただきますと、資料2としては、全ての質問に対して、数値選択式での回答で自由回答を設けております。資料2に関しては、こちらの自由回答でいただいたコメント全てありのまま載せている形になっております。かなり分量が多いですが、またお手すきの際にお目通しいただければと思います。1番最後、資料3として、分析結果をまとめさせていただきましたので、今

回はこの資料3を主に基にしてご報告をさせていただきます。

14ページに女子バレーボールと野球、それぞれ分けて分析結果をまとめております。

まず、女子バレーボールクラブに関しましては、「現在の休日の地域クラブの活動内容や頻度に満足していますか。」と聞きました。生徒に関しては70.9パーセントが満足と回答している一方で、保護者に関しては47.2パーセントの満足度にとどまっています。生徒と保護者の満足度で違いが生まれる結果となっております。この背景としては、大学の学生の指導者のおかげで、活動の内容、充実度は上がってきているものの、事務局の運営体制やユニフォーム運用等々で様々なご意見をいただいているところで、ここを改善していくことが満足度向上につながっていくと考えております。

それぞれ具体的に評価されている点と改善点をまとめさせていただきました。まず、評価されている点に関しては、生徒には、「部活動から地域クラブの活動になって指導の質が向上したと思いますか。」という問いで、保護者に関しては、「指導者2名体制において安心感がありますか。」と聞きました。こちらに対して、生徒、保護者ともに70パーセント弱ぐらいのところ満足度を獲得しております。地域クラブの活動内容としては、こういった地域クラブになったことがあってポジティブに作用している面はあるかと思えます。

一方で、改善点としましては、活動予定の決定の早期化を求める声、バレーボールでは地域クラブと平日の指導者が違う拠点が3つありますが、ここでの連携に対して、強化を求める声も上がっております。また、ユニフォームに関しては、レンタル制で実施しており、デザインは統一し、カラーだけチェンジをしているものを1枚ずつ用意しているという状況なのですが、ここに関して、サイズ、デザイン、あとは枚数のところ等で、様々なご要望が上がっております。

こちらに関して、今後のアクションとしましては、まず、予定決定のところは、あらかじめ「前月の何日までに予定を決定する」というところを保護者の方にも示して、我々としても、示している期日までに予定を共有することをお約束としていくところが、信頼関係構築の上で大事な部分と思っております。現時点では、バドミントンや、バスケットボールの体育館割りのところで、なかなかギリギリまで予定の決定ができないクラブも実際はあるのですが、ここをあやふやにするのではなくて、それぞれのクラブごとに毎月何日までに予定決定できるのかというところを、我々としてもきっちり確認を行っていきたいと考えます。また、平日の部活動と、休日の地域クラブの指導者が同じ拠点と同様に、指導者が異なる3拠点に関しては、平日の部活動がどのように行われているのかを、顧問の先生にもご協力いただきながら確認を取らせていただいています。この部活動とクラブ間での連携方法は、連絡が取れるアプリケーションを活用しています。実態として、これがどこまで学校の先生サイドに確認をさせていただいているのかが曖昧になっています。改めて、連携方法の強化と徹底を促進していきたいと考えております。

続きまして、野球クラブの話に入らせていただきます。野球クラブの傾向としては、地域クラ

ブの満足度に対して、生徒の満足度が55.6パーセント、保護者が30.9パーセントと、バレーボールよりもかなり厳しい結果となっております。こちらの1番の理由としては、特に人数が30名を超えている滝野拠点と船穂拠点に関して、Aチーム、Bチーム間での試合の出場機会や練習機会の差というところが大きいです。実際に試合に出場できている生徒、保護者の方からは、一定の満足度を得ていただけているものの、試合に出られていない生徒、保護者に大きな不満が溜まっていることが顕著に現れておりました。また、ユニフォームのレンタル制度について、野球もバレーと同じくレンタル制度で支給をしているところですが、個人購入を希望すると回答した保護者が45.6パーセントというところで、バレーボールよりも個人購入を希望する声が多い結果となっております。

野球についても、それぞれ評価されている点と改善点をまとめさせていただきました。

まず、評価されている点は、この地域クラブの活動になったことで、今どの拠点も練習試合を多く組んでいただいておりますが、こういったところで練習経験、試合経験を積めることが嬉しいという点、合同チームになったことで、「新しい友達ができた」、「単独では勝てなかった相手に勝てるようになった」、「大人数で切磋琢磨し合えていることがうれしい」といった点です。野球に関しては今、学校の先生が兼職兼業で指導者になっているので、平日の学校部活動と変わらず見ていただけることに安心感を覚えている保護者の声もございました。

一方、改善点としては、冒頭にもお伝えをしたところですが、試合に出られていない生徒、保護者からの練習試合、練習での機会の差や指導の差というところの不满が、優先課題として解決していく部分と感じています。また、ユニフォームのレンタル制に対する不平等感もあり、全員が同じ金額設定で実際にまだ試合で一度も着たことがない保護者からは、一律の金額設定に対してのご不満等も上がっております。ここは来年度本格実施する際に、他の種目にも想定されます。今後も定期的に巡回をし、現場の意見をリアルタイムに反映できるようにしていきたいと思っております。

最後に来年度の本格実施に向けた分析というところで2点挙げさせていただきました。

1つが、ユニフォームの運用方法についてというところです。レンタル制か購入制、どちらがいいかという問いに対しては、バレーボールの保護者は、レンタル制がいいという回答が64.2パーセントであった一方、野球の保護者では、レンタル制を希望するという回答は29.4パーセントにとどまっておりました。野球の保護者の半数近い45.6パーセントは個人購入を希望しているということがわかりました。特に野球では、20枚ずつチームに用意をしていますが、30名、40名という所属人数では、全員が着られないという状況になっております。保護者、指導者からも、「一緒にユニフォームを着ている方がチームの一体感が上がる」という声もありますので、来年度、ユニフォームの運用をしっかりと検討していきたいと思っております。個人購入を求める中には、これまでの学校部活動で買っていたものの方が安価でありがたかったというような声もあ

りました。個人購入にする場合も、ここの購入の費用負担を減らしていけるよう、我々としても、ユニフォーム業者の選定、検討も含めて、今後できるだけ価格を抑えるための方法も検討していきたいと思います。

もう1つが、受益者負担金額についてです。保護者アンケートの問い7番で、「受益者負担金額月3000円程度を見込んでおりますが、こちらが適正であると考えますか」という問いに対して、バレーボール、野球ともに約66パーセントの保護者が適正であると回答しております。しかし、事務局運営の質、指導の活動内容によってはこの3000円も払いたくないというような声もございます。

指導者からは、来年から受益者負担でお金をいただいて、そこからの報酬を得ていくことに対して、自分の指導に期待される部分が増えていくことが心配であるというような声もあります。

実際にすでにたくさんのご意見をいただいておりますが、来年にはより厳しい内容も増えてくるかと思えます。現段階のモデル実証の間に改善できる部分は改善をして、きちんと体制を整えていくことが大事だと感じております。

こちらに記載がなくて恐縮ですが、指導者アンケートにつきましては、1番最後のページに記載しておりますので、それぞれご確認をいただければと思います。数値面で言いますと、1番否定的な意見、全くそう思わない、全く満足していないという回答が全ての設問において0でした。事業の内容として一定の評価をいただいている部分がある一方で、先ほどもお話あったような料金、物品購入、学校の施設費用等の不安といったところで、様々なご意見いただいております。こちらはまた別でのコメントをご確認いただければと思います。

私からのご報告は以上にさせていただきます。

(会長)

はい、ありがとうございました。ご質問はありますか。

(委員)

野球部は昨年までは人数不足で、ほぼ合同チームでした。ですから地域移行のモデル種目に指定したのですが、ふたを開けたらほぼ全部の学校がチームを組めるようになっていました。校長会で相談をして決めたのですがこういうことになりました。こういうことはこれからも起こりうる気がします。また、逆のパターンもあると思います。いっぱい拠点を用意したにも関わらず全然人が集まらないこともありえます。臨機応変にこう割り振ることができるか、それは考えていく必要があると思います。野球の不満は、これから先も、部員の増減、拠点数の適正をどう調整していくかという課題を示していると思います。

ユニフォームは、野球はユニフォームを練習で着る機会もあると思います。練習では着ていないのに、急に当日にユニフォームを着ることに、保護者も違和感を覚えるかなと感じます。ユニフォームは、種目によってやり方が異なっても良いと思います。

実際、本校の部活動顧問と地域クラブコーチが違うので、大会前日まで連絡来てない、どこの会場か、大丈夫か、何時集合か、わからず顧問が焦っていました。結局何するかというと、前日までに大会に持っていく道具を用意をし、保護者に渡す必要などがあります。連絡が徹底されていないことで、焦っていました。ホームページを活用したり、市のメールシステムを活用したりして、個人個人に届く添付ファイルができる仕組みを利用したりできると、もうちょっと迅速にできるのかなと思います。もらったものを写メで撮って、情報をメールで送れば、見て判断できます。保護者にはホームページを見るように伝えて、そこに情報を載せれば、連絡が口頭だけよりも良くなると思います。

表彰について、かなり書かれていました。これは校長側の責任で、今、クラブチームになったところは、他の学校と合わさっているので、学校でもう表彰しませんよということになっています。保護者は、学校で表彰しないのなら、成績、進路に反映されないのではないかと、すごく焦っています。でも、進路には反映されます。進路の調査書などには載せますので、結果とか物の証拠とかなくさないでくださいねと知らせているのですが、見てないかもしれません。校長先生の中でも温度差があるので、その時にあまり言わない校長先生もいたかもしれません。他の部活は表彰されて、それが成績に反映される。でも、バレーとか野球はいくらやっても反映されない。これでは不公平感が出てしまいます。どうしてもばらつきが出てしまうので、例えば市で雛形を作って整えてもらえれば基本的には必ず記入されます。

(事務局)

今日の校長会の資料で、実は通知表の記載について載せさせていただいています。今年の千葉県の公立高校の調査書の県教委の実施要項にも、部活動の記載が、〇〇部と●●地域クラブと記載するようにと、入試の通知でも出ています。通知表には例えば、今年で言えば野球部、野球地域クラブという記載はあった方が、調査書になる時にはそのまま転記される形になるのかなと思うところです。

(委員)

ただ、それで言うと、学校に賞状が来ないです。だから学校では何が起こったかがわかりません。今までは顧問が、顧問会議に出て、学校に伝えました。賞状を取りましたと。だから把握していたけれども、もう今は、いつ大会が開かれていたかも全然わかりません。そこがちゃんと学校に伝わるシステムがないと困ってしまいます。例えばコーチの方から、学校に大会要項や大会結果を回してくださいとか、コピーとってやり取りしてくださいでも構わないですね。これまでは、これを必ず台帳に記入してくださいっていう、表彰台帳で確認を取ってきました。正式名称でなければなりません。来年の調査書の記載事項確認で保護者からの問い合わせが増えるかもしれません。そのあたりの枠組みも作らないといけません。

(委員)

ユニフォームの点です。各競技種目によっていろいろと実情を調べていくこと、私も賛成です。郡市民のスポーツ大会がありまして、印西市の代表で各競技に出ている方々に、ユニフォームを貸与しています。それも何年かに一度更新をしています。確かサッカー協会の方から、サッカーはゴールキーパーと他の選手で違うと意見をいただき、そういった形でもう一種類作ります。また、同じ日に2試合した場合とか、相手チームとの色合いの関係で、極端な色の違うものを2種類あるといいね、みたいな話もいただいています。各種目によって、実情どういう形でユニフォームを用意しているのかということころは、1つ1つの協会などから聞き取りをしてみた方がいいと思います。どういった形でユニフォームを運用していった方が良いのかというのは、参考になると思うので、その辺りは調べると良いと感じました。

(会長)

レンタルって買うよりも年間通して安いのでしょうか。レンタルはどれぐらいするものなのでしょうか。

(事業者)

バレーボールが4000円、野球が5000円をいただいております。

(事務局)

3年間で1回なので、個人購入をするよりはどちらも安い金額設定です。今年度は先行実施で、受益者負担もまだ始まっていません。その中でユニフォーム代はどうしても負担をお願いする部分があったため、この費用をできるだけ抑えて、活動がスタートできる最低ラインを作って、様子を見ていきたいという意図がありました。ただ、特に野球の方からは「ユニホームレンタル料をプラスで払ってもいいから、自分で買わせてほしい」という声もあがっているので、ここは意外なところではありました。

(会長)

1つ安心材料として、野球指導者が悪かって話じゃないですよ。指導方法が悪いとか、指導者の質が悪いとか、そういう話ではないことが良かったです。

(事業者)

そのAチーム、Bチームで分かれた時に、Aチームはすごく手厚く見てもらっているけれども、Bチームではあまり見てもらえないという声があったので、そこはBチームにも目をかけてもらうよう指導者に働きかけが必要だと思います。

(会長)

コーチの数の問題ならば、一律1クラブ2人ではなくて、例えばA、Bチームがあれば、人数を増やして厚めにするという考えもあります。指導者の質が悪いという話になったら、これは多分いろいろ考えなければいけない話だと思いますが、人数が多すぎて十分に自分たちの子どもが指導されてないということであれば、指導者を増やせば良いので、そこはポジティブに考えても

いい気がします。ただ、人がそれだけいっぱいいるかっていう問題もありますよね。実際、野球は現場の兼職の先生がやられている。

(事業者)

野球は3拠点あり、指導者はそれぞれ3人、2人、2人と配置しています。そのうちの2拠点には1人ずつ外部の指導者がおりますが、一つに関しては、中学校の野球部の顧問のみが集まっている状態です。

(委員)

休日の練習に、コーチが来ないことが多すぎという記述がありますが、それは事実ですか。

(事業者)

おそらくバレーボールの保護者からのご意見かと思います。今、バレーボールのクラブでは、6チームあるうちの3チームで、大学のバレーボール部の学生に指導者としてサポートをいただいております。その3チームは、現在の平日部活動の顧問が兼職兼業で指導しています。大学の大会があると、その学生が来られない日が、現実として発生をしております。その対策として、できるだけ、コーディネーターが、バレーボール専門で巡回しているものの、どうしても2人の指導者が揃って全ての活動ができていないという実態があります。

(委員)

親の期待は大きいです。やはり子どもが試合に出てプレーしていないことは残念に思うはずです。アンケートの内容に対応していくとお聞きしたので、安心しました。頑張ってください。

(会長)

実践すればするだけいろんな課題が見えてくると思うので、クラブの指導だけではなく、丁寧な運営をしていかなければいけません。子どもたちに不利益がないよう、調査書のことも含め、どういう手続きを用意すべきか少し考えた方がいいのかもしれないですね。でも、受益者負担3000円っていうのは、国のガイドラインで出てきましたけれど、実際に3000円で運営していけるのかと考えると、4000円、5000円と増額することや、他のところからなんとか集める策も必要かと思います。税金もそうでしょうし、寄付、ふるさと納税、財政を検討していかないといけないところもあります。多分もう3000円ってかなりギリギリやっつけいけるかやっつけいけないかっていうところの部分だと思います。今、物価も高いですし、本当に価格も、それこそアルバイト代だってどんどんどんどん値上がりしているので、この価格が時代遅れになって、「そんなの誰もやらないよ」となってしまったら、すごく厳しいと思います。だから、それは、教育委員会というか、その市の財政とかも含めた中で考えていかなきゃいけないものなのだと思うところです。

(事務局)

まだ受益者負担を取るところに至っていませんが、この年5000円程度、月3000円程度という価

格設定は、もちろん事業者との打ち合わせで、1クラブ2人の指導者を配置することを前提に試算をした額になります。これは昨年の全体説明会でも事業者から保護者に説明がなされ、年会費5000円と月会費3000円は上限で、さらに必要になった場合は、企業版ふるさと納税や寄付を集め、受益者負担を3000円より下回る額で保護者に提示できるようにスキームを作っけていき、スタートしようとしています。一応この3000円がマックスで、どうにか回していくことを想定しております。他市町では、クラブの充実を図るとなると今より値上げしなければならないと検討している自治体もあります。

(委員)

予算についても、学校の方が縮小していくと、部活の用品が問題になります。用品はPTA会費と生徒会費から出しています。「もう学校では買わない」となると、それを休日の地域クラブでも使っているんで、それがなくなってしまうことになります。用品を買うお金が、今後土日の方で負担になってくると、受益者負担の金額が上がる可能性があるんで、この点を踏まえ、学校にはまだ急に進めないよう話す必要もあります。そのあたりは活動を続け、お金もつけるように話してかないと、「土日に移行だから減らそうね」とか「PTAから部活の分は減らしていこうね」ということがどんどん進んでしまいます。その結果、ものが買えなくなってしまい子どもが困ってしまいます。きちんと話し合っていく必要があります。

(委員)

受益者負担3000円程度というお話が出ていますが、野球の人数が非常に多くて、Aチーム、Bチームというようなことになっているようです。やはりAチームは試合にも出る、練習量も多い。当然Bチームの方が少なくなってしまっって、保護者の方からお子さんからも不満が出る。そもそも、会費3000円といった時に、採算性として、合うのは何名ぐらい会員様がいて成り立つのでしょうか。また、先ほど言ったチームというのは、30人、40人という大所帯であれば、AとBとを違うチームとして分けるとか、拠点を2つに分割するという検討もできるかと思います。その基準として、何人ぐらいであればそれができるのかということも踏まえながら、チームの再編成を検討していただくと良いかと思います。講師、監督の配置、人数も、生徒さんの数に応じて検討していくと良いかと思います。せっかく参加していただいている生徒の皆さんですので、そこで活躍をしたいと思うのは当然です。費用と合う規模と比較して、人員の配置も踏まえた形で、再編を視野に入れていく良いかと思います。

(会長)

これは意見です。値上げはやはり世の中の的にはどうしても抵抗があります。他市町の事例で2000円でも、全然充実していないとなれば保護者は、もう1000円払ってでももっといい指導を得たいとなるはずですよ。本当にいい指導を得られたらいいというのであれば、それが4000円だったとしても、「出す価値があるね」となれば大丈夫です。今のところは、自走のモデルとしては月3000

円の年5000円は1つのモデルではあります。しかし、例えば学校事情によって用具代なども出さなければいけないでしょうし、そういったところは分析して、だいたいこの種目の人数にどのぐらいのコストパフォーマンスがあるのか、分析ができていくと良いです。

つづきまして、協議事項の4、2です。推進計画についてお願いします。

(事務局)

資料の6ページの下段をご確認ください。令和7年6月11日付で、千葉県の教育委員会の保健体育課と学習指導課から、この地域展開に関わる推進計画の策定と提出というような依頼が来ております。今年度末までにはどの自治体もこの推進計画を提出することになっています。前回の協議会で会長の方から、近隣市はそれを協議会で確認したということでお話がありまして、まだ言葉整わずの状態ですが、急ぎ作っている推進計画を別添で準備しましたので、ご確認いただけたらと思います。言葉の文言に関してはまだ整理をして直さないといけないところもありますが、令和5年度から始まった協議会で印西市の課題として考えていたもの、そこから出てきた方向性、昨年度の準備段階のもの、あと今年度、6年度の予定も書いてあります。7年度、いよいよクラブが稼働し始めましたので、今年度の予算と活動した取り組み状況、そして来年度の予定クラブ数と取り組みの予定が示しあります。令和6、7、8と3か年の推進計画の提出も求められていますので、暫定で作成しました。もちろん、完成版ではなく、この時間でご指摘いただくのも難しいと思うので、2月末ぐらいまでになにか追加で必要なことがあれば、連絡いただければと思います。それも含めて盛り込んで、教育委員会で確定し、県の教育委員会に3月に提出を予定しております。何かご意見、ご指摘いただければ、それを盛り込んだ形で修正してまいりたいと思いますのでよろしくをお願いします。

(会長)

はい、ありがとうございます。これは様式が決まっているのですか。

(事務局)

これは県の雛形です。県の通知には任意様式と書いてありましたが、どの自治体もほとんどがこの形で提出するのではないかと思います。

(会長)

確か、県の雛形があって、埋めていく形でそれぞれの市町村の特徴を出すっていう形だと思うので、雛形自体はもうその県の計画、推進計画書のものだとは思いますが。基本的にはやってきたこととこれからのこととを出してもらえばいいのかなと思います。

(事務局)

昨年はクラブ稼働をしておらず県の委託対象外でしたが、県の担当者に交渉し、「印西市は千葉県のスケジュールどおりには乗れていませんが、令和8年度には追いつく計画なので委託してほしい」と依頼して、協議会の費用を県の委託でもらったというような形の額になります。

(会長)

それでは、審議事項の方は以上になります。

今日、いろいろとご意見をいただきまして、本当に難しい点がいっぱい出てくるとは思うのですが、それを1つ1つきちんとクリアにしていくことが、大事なことだと思いますので、引き続き、着実に進めていただければと思います。

振り返ると、印西市は基本的にゆっくりと進んでいたところですがけれども、気が付いたら意外と先頭の方を走っていました。無事にゴールすることを願っています。事務局の方に戻します。

## 5 その他

(司会)

ありがとうございました。次第5その他で何か連絡のある委員の方はいらっしゃいますか。

(事務局)

次年度のこの協議会について、要項案を添付しましたので、ご確認ください。

おかげさまで、この部活動地域行推進協議会、令和4年度の末に要綱が設置されました。私は令和5年度にこの教育委員会に着任してきました、丸々3年間この協議会を運営してまいりました。ちょうどこの令和8年の3月31日で一旦区切りを迎えました。ただ、次年度に本格実施するといっても、まだまだご意見をいただきたい状況です。この要項の内容については、地域移行から地域展開に変更させていただきます。委嘱の任期は、教育総務課さんの方をお願いして、期間や要綱の変更に関して、確認をしているところです。提示させていただいているものは、来年度、令和8年の4月1日から令和9年の3月31日という1年間で、赤で書いてあります。県のスケジュールで言うと、6年間、改革実行期間というのは続くので、3年刻みの令和11年3月31日の3年間にするのかということを含めて、教育総務課さんと確認中です。次年度以降もこの協議会で、いろいろご意見いただきながら修正して、いいものを作り上げていきたいと思っております。何かもし要項に盛り込みたいことや、これを変えた方がいいということがあれば、ご指摘いただくと助かります。

(司会)

では、この要項について何か質問やご意見あればお願いします。

(事務局)

この協議、3年間お付き合いいただきありがとうございました。次年度以降も協議会でご助言をいただきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

(司会)

それでは、以上で第3回印西市部活動地域移行推進協議会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。

令和7年度第3回印西市部活動地域移行推進協議会会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和8年3月3日

委員 渡辺 敏雄

委員 伊藤 章